

## 別室指導教室の活用について

### 【板橋区立 A 中学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

対象生徒は、学校には登校したいが教室には入れない不登校傾向の生徒と、普段は教室で学習しているが、息が切れてしまったり特定の教科の授業に入れなかったりする生徒の居場所として活用している。

#### 具体的な取組

##### 別室指導教室の開設

別室指導教室は、毎日2校時から5校時まで（水曜日は給食まで）開室している。教室での過ごし方は、本人に選択させている。

学習でも休憩でも、先生やボランティアとの会話やゲームでもよく、自由度を広げることによって、生徒が利用しやすいようにしている。

##### 定期的な委員会の開催

毎週確実に委員会を開催できるように、時間割上に会議日程を入れている。

会議では情報交換からはじまり、改善策の立案や生徒一人一人に対する支援の在り方の見直しなどを行い、他の教員へ周知している。

##### ボランティアの活用

開室している時間は、全て教員を時間割上で割り振っている。それに加え、大学生のボランティア（10名登録）にも入ってもらい、一人一人の生徒のニーズに極力合わせるような努力をしている。

##### 別室指導教室の整備

限られた予算の中ではあるが、教室の整備を行った、学習ができるスペース、談話を楽しめるスペース、リラックスできるスペース、そしてパーソナルスペースも確保することで、様々なニーズに応えられるようにしている。



#### 成果

別室指導教室を開設したことで、登校できるようになった生徒が増えた。今年度入学した生徒でこの教室を利用している生徒はいるが、中学校に入学してから新たな不登校は出現していない。この教室を頻繁に利用していた生徒の中で、終日教室で授業を受けられるようになった生徒がいる。

#### 課題

別室指導教室に通う生徒に、将来の目標をもたせたり、夢中になれるものを見付けさせたりすることが難しい。

学習に関するモチベーションをもたせることが必要である。

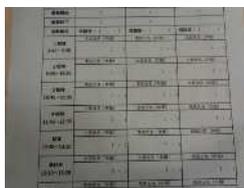
## 入学時からの不登校生徒の登校機会を増やす取組について 【板橋区立 B 中学校の取組】

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校入学時より不登校で週1回程度、放課後に登校するように促し、担任や学年の教員が対応して簡単な学習などをさせていた。卒業後のことを考えたときに、昼間に登校できる習慣を付けさせる必要があると考えていた。

### 具体的な取組

スクールカウンセラー、家庭と子供の支援員、ボランティア学生等を活用しての居場所づくりを行い、昼間の登校を促した。支援員と学習や会話をして過ごし、学校で給食を食べることができた。他の生徒と時間が重ならないよう、時間帯を予約する表を作成し、調整した。



時間	予約者	時間	予約者
10:00-10:30	山田	10:30-11:00	田中
11:00-11:30	佐藤	11:30-12:00	鈴木
12:00-12:30	高橋	12:30-13:00	渡辺
13:00-13:30	小林	13:30-14:00	吉田
14:00-14:30	山崎	14:30-15:00	佐々木
15:00-15:30	松本	15:30-16:00	山本
16:00-16:30	石川	16:30-17:00	水野
17:00-17:30	木村	17:30-18:00	山口
18:00-18:30	斎藤	18:30-19:00	高木
19:00-19:30	中村	19:30-20:00	森田
20:00-20:30	山田	20:30-21:00	田中

各長期休業日明けのタイミングで行う生徒指導会議において、不登校生徒への対応についてスクールカウンセラーからの情報を共有した。加配教員がスクールカウンセラーから事前に話を聞き、ビデオメッセージで伝えるといった運営方法などを工夫した。



週1回の生活指導部会において、各学年の生活指導担当者、加配教員を含む不登校対応委員、スクールカウンセラー、SSW で不登校生徒の現状について情報交換を行った。その中で、当該生徒の一週間の様子や変化について情報収集を行った。

特別支援学級への転級も選択肢の一つとして考えさせることを特別支援教育校内委員会で決め、スクールカウンセラーが本人や保護者に提案した。WISCの受検や体験入級も行ったが、今回は、本人の意向により、見送りとなった。

### 成果

以前より昼間の時間に学校に登校する日数が増えた。卒業後のことを考えたときに、昼間に登校する習慣をつける必要があることを理解するようになった。進路についても考えて保護者とともにサポート校を見学して、自分の気に入った学校を見つけた。

### 課題

個別に対応しなければならない生徒が複数いると教室などの環境や対応する人材がどれだけいても対応し切れないことが課題である。

## 別室対応を生かした登校支援の取組について

### 【板橋区立 C 中学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

対象生徒は、「他人の目線が気になる」という不安を抱えており、本人・保護者とも別室登校から、徐々に教室に入れるような方法を希望していた。保健室登校では他の生徒との関わりが予想されるため、別の「居場所づくり」を考える必要があった。

#### 具体的な取組

##### 特別支援校内委員会の充実

- ・不登校対応加配教員、特別支援コーディネーター・養護教諭・学年主任・管理職・巡回指導教員・SCに加えて、毎週SSWにも参加を依頼している。
- ・各学年からの情報・課題に対して、専門家の意見を取り入れるために、SSW・SC等との連絡・調整を図る。

##### 別室登校生徒の「居場所づくり」

- ・「他の生徒との関わり」が難しい生徒の居場所として、教育相談室を開放し、不登校対応加配教員を中心とし、学力向上専門員や学生ボランティアを配置し、生徒の教室復帰と学習を支援する。



##### 特別支援教室との連携

- ・特別支援教室の巡回指導(拠点校)としての利点を生かし、巡回指導教員と連携しながら登校支援につなげていく。



##### 保護者への対応

- ・学級担任に加え、不登校加配教員を中心とした学校体制で電話連絡・訪問やポスティングを行っている。
- ・SSWによる支援として、連絡の取りづらい家庭への保護者対応を依頼している。

#### 成果

- ・特別支援校内委員会では、資料作成や課題把握を特別支援コーディネーターなどと進め情報交換が円滑に行われ、校内委員会の活性化につながった。
- ・本年度はSCに加えSSWも出席できるよう調整し、より専門的な意見が得られている。

#### 課題

- ・特別支援校内委員会での情報を踏まえた取組で現れた成果を、教職員間で時間差なく共有するために、ICT機器を活用するなど、情報共有の方法に工夫が必要である。